

【目次】

1. アーカイブ No.16

連載「日本労働会館物語」第 13 回 2010.07.15 発行の第 14 号に掲載

2. 早稲田大学・政策立案グループ・早兎隊の 5 名が受講・見学

3. 出張講演・UA ゼンセン流通部門・ダイエーユニオン・伝承塾「枝垂桜」が福岡で開催、合計 6 名が参加

4. UA ゼンセン富山県支部 22 名が 4 月 12 日(金) 来館・解説見学

5. UA ゼンセン福岡県支部 32 名が 4 月 24 日(水) 来館・受講・見学

6. 2024 年 4 月 27 日(土)～5 月 6 日(月)の期間、友愛労働歴史館の臨時休館のお知らせ

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1.アーカイブ No.16

連載「日本労働会館物語」第 13 回 2010.07.15 発行の第 14 号に掲載

連載「日本労働会館物語」第 13 回

<クレイ・マッコレーの評価—その3>

アメリカ・ユニテリアン協会(A.U.A.)の宣教師クレイ・マッコレーは長く日本に滞在し、ユニテリアン協会・唯一館(後の日本労働会館、現在の友愛会館)の建設を主導し、また日本の社会運動、労働運動にも大きな影響を与えましたので、これからも必要な範囲でマッコレーについて言及したいと思います。しかし、本連載は「日本労働会館物語」ですから、今回の連載でマッコレーに関する記述は一応終了し、以後は必要により言及を行います。

1887 年のアメリカ・ユニテリアン協会の宣教師アーサー・メイ・ナップの来日でスタートした日本ユニテリアン・ミッションは、ユニテリアン教の持つ自由と寛容、進歩性や合理性などにより、またナップの人柄や明るい性格、社交性などにより多くの指導的な人々から歓迎され、ミッションの将来は明るいものがありました。しかし、その後、ユニテリアン・ミッションは躓き、日本人支援者は手を引いていきます。何故、ミッションは伸展しなかったのでしょうか。

土屋博政慶大名誉教授は著書『ユニテリアンと福澤諭吉』や論文「なぜ日本ユニテリアン・ミッションは伸展しなかったのか」で、「ミッションの躓き」として「第一に有力な支援者を失ったこと、第二にナップの病気による帰国、第三にマッコレーの非社交的な性格と適切な指導の失敗」を挙げています。では彼の「非社交的な性格と適切な指導の失敗」とはどのようなことなのでしょうか。

土屋教授はナップ帰国後のマッコレーの努力を認めつつも彼が、①来日前に妻を失い独身であった事で人との交流の機会が少なかったこと、②社交性に欠け、内向的な性格であっ

たこと、③一般の日本人と交流をせず、また同僚の宣教師とも親しく交わらなかったこと、④専ら思索に没頭する思想家であり学者であったことなどを挙げ、「学者として優れていようと、日本人と付き合いわず、勉強ばかりしているマコーレイの内向的な性格は、宣教師として望ましくない」とし、「寡黙の上に、仲間と一緒にやっけて行くのに非協力的であったとすれば、ミッションを運営していく指導者としての資質も疑われよう」と記しています。また、「適切な指導の失敗」では、①ユニテリアン牧師加藤覚処分の問題、②宣教師ホークスとの対立、③多数の脱会者を生んだ対応の仕方などを挙げています(詳細略)。

これではたしかにマコーレイは宣教師として、また組織の運営者として適任とは言えないようです。しかし、彼が一定の貢献を行ったことを認める必要はあるでしょう。マコーレイは『史観的基督教』などを刊行し、「自由で寛容、進歩と発達の増進」を謳うユニテリアン教を日本に紹介しました。また、英文『百人一首』などを出版し、日本を紹介することで「彼の英語による著作は、日本に関する未知の学術的情報を生み出し、日本研究の新たな方向を作った」のです。

さらに社会運動、特に労働運動への貢献は特記されるべきでしょう。大正元年8月、マコーレイの秘書を務めていた鈴木文治が友愛会を創立したとき、マコーレイは彼に秘書の仕事をさせつつ労働運動に従事することを認め、その事務所を惟一館の中に置くことを了承したのです。これは労働組合非合法の時代に驚くべき事です。マコーレイのこのような支援があったからこそ友愛会は後に総同盟へと発展し、今日の連合へと繋がる自由にして民主的な労働運動の基礎を確立し得たのでしょう。(連載第13回終り、文責:間宮悠紀雄)

2. 早稲田大学・政策立案サークル・早兎隊 5名が来館・受講・見学

3月31日(日) 早稲田大学・政策立案サークル早兎隊の5名が、講義「日本労働運動の100年余り」を受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説を70分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性和今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。受講後は、展示室の見学と日本労働遺産の第一号に認定された「日本労働運動発祥之地」石碑とユニテリアン教会・惟一館煉瓦塀跡を見学し、記念撮影を行った。

皆さんとっても熱心に受講し、細かく見学した様子でした。

3. 出張講演・UAゼンセン流通部門・ダイエーユニオン・伝承塾「枝垂桜」が福岡で開催、合計6名が参加

伝承塾も4講座のうち3講座目となり、政治について学ぶ機会となった。

友愛会発足以降、リーダー自らが各級議員を兼務しつつ、民主的労働組合の確立を進めることの重要性。法治国家でありながら理不尽な法との対峙など、現代の政治活動と選挙活動の重要性を学び、公職選挙法について考察した。具体的には、現職の女性議員(福岡市

南区・近藤里美市議会議員)より、議員活動と市議会での意思決定、労組出身のメリットなど生の声を拝聴しました。

4. UA ゼンセン富山県支部 22 名が 4 月 12 日(金) 来館・解説見学

常設展示「日本労働運動の 100 年余」を解説。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を聴く。特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。その後は、展示室の見学と日本労働遺産の第一号に認定された「日本労働運動発祥之地」石碑とユニテリアン教会・惟一館煉瓦塀跡を見学し、記念撮影を行った。皆さんとっても熱心に受講し見学をしました。

5. UA ゼンセン福岡県支部 32 名が 4 月 24 日(水) 来館・受講・見学

あいにくの雨の中、常設展示「日本労働運動の 100 年余」をダイジェストで受講。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を 45 分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。受講後は、雨天にもかかわらず、日本労働遺産の第一号に認定された「日本労働運動発祥之地」石碑とユニテリアン教会・惟一館煉瓦塀跡を見学し、展示室の見学、展示室内で記念撮影を行った。皆さんとっても熱心に受講し見学をしました。

6. 2024 年 4 月 27 日(土)～5 月 6 日(月)の期間、友愛労働歴史館の臨時休館のお知らせ

①ゴールデンウィーク期間の友愛労働歴史館の臨時休館のお知らせ

4 月 27 日(土)～5 月 6 日(月)の間は、友愛労働歴史館は臨時休館とします。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行:友愛労働歴史館

責任者:藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuairedokishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairedokishikan.com>

惟一館から 129 年、友愛会から 111 年